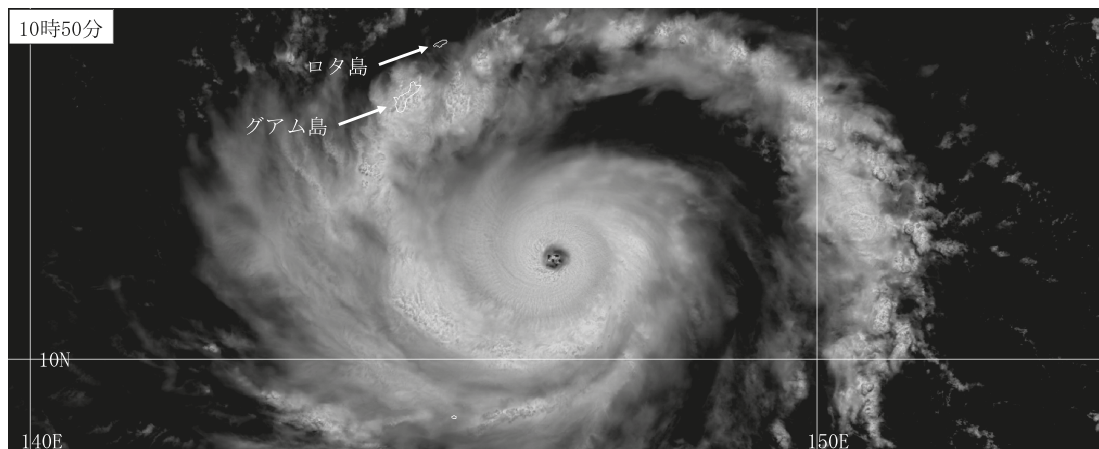
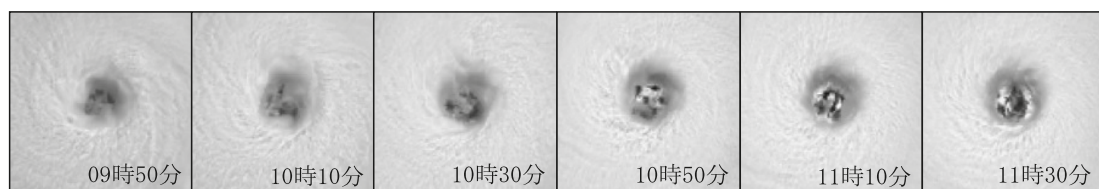


今月のひまわり画像—2023年5月

記録的な発達をした台風第2号の眼の中のメソスケール渦



第1図 2023年5月23日10時50分（日本時間）のマリアナ諸島付近における可視画像。



第2図 台風第2号の中心付近を拡大した23日09時50分～11時30分における20分毎の可視画像。

2023年5月20日15時（日本時間）にカロリン諸島で台風第2号が発生した（以下、台風の記録は速報値）。同海域の海面水温は30℃以上あり、鉛直シアーも比較的小さいなど発達に適した環境場であったため、第2号は順調に発達し、23日09時には眼が形成された。

第1図は23日10時50分の可視画像である。第2号の中心付近にはスパイラル状の雲バンドが存在しており、明瞭な眼と円形の濃密な雲域が確認できる。第2図は第2号の中心付近を拡大した20分毎の可視画像である。10時50分の眼の形状は五角形を呈しており、5～6か所の雲のない領域が五角形の頂点と眼の中心に確認できる。Kossin and Schubert (2004) の事例と同じく、渦ロスビー波によって生じたメソスケールの渦が眼の中に存在していると考えられる。また、赤外面像（図略）と比較すると、10時30分までは壁雲の縁が上層雲で不明瞭になっているが、10時50分以降は明瞭になっていることも確認できる。これは壁雲で上昇流が強まり多量の潜熱が放出されることにより、渦ロ

スビー波の発生に関わる大気下層の渦位が増加し、それと同時に補償下降流も強化されたことが一因だと推察される。

第2号は、24日03時には眼が一時消失したが、非常に強い勢力でグアム島へ接近した。同日21時にはロタ島との間を北西に進み、その後、向きを西へ変えながら再び発達した。眼が消失してから24時間後の25日03時には再び明瞭な眼が形成され、26日09時には、中心気圧905hPa、最大風速115kt（1kt≒0.51m/s）の猛烈な勢力にまで発達した。これは、5月に発生して同月に最大勢力に達した台風の中では、1986年の第3号（最盛期の中心気圧910hPa、最大風速120kt）と同程度で、中心気圧の低さでは過去1位であった。

（気象庁大気海洋部予報課 村松勇治）

参考文献

Kossin, J. P. and W. H. Schubert, 2004: Mesovortices in Hurricane Isabel. *Bull. Amer. Meteor. Soc.*, **85**, 151–153.